

登録コード	TOH06900	開講年度	2026				
授業科目	博物館展示論(16T以降)				担当教員	樋口 明里	
英文授業名					副担当		
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				⇔	【授業の達成目標】	
	2 5Tカリ, 2 3Tカリ						
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。				⇔	博物館における常設展、企画展や関連事業について、構想から実施、評価に至る過程を理解する。	
	2 6Tカリ						
	【26T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。				⇔	博物館における常設展、企画展や関連事業について、構想から実施、評価に至る過程を理解する。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	博物館における展示の意義、展示が実現されるまでの諸課程、出来上がった展示を多くの人びとに理解してもらうための様々な普及事業のありかたなどを学ぶ。 担当教員が学芸員の実務経験を活かして講義を行います。						
(5)授業計画	1 オリエンテーション 各自の展示にかかわる体験を共有する 2 博物館の展示 関連法令・基準 コレクションと展示 コミュニケーションとしての展示 3 博物館展示と社会 展示の政治性・社会性 地域社会 4 博物館展示の歴史 古代から近現代 現状とのかかわりから 5 博物館展示の緒類型 館種・展示資料・方法等からの類型 6 展示のプロセス 企画から終了まで 7 展示の類型と資料の取り扱い 分野別の取り扱い 8 展示の技術1 動線 環境 照明 ケース 9 展示の技術2 グラフィック 図録 10 小レポート 各自が見学した展示を技術から振り返る 11 展示を伝える 解説と対話 ガイド 広報 12 展示の評価 評価方法 13 展示にかかわる普及事業 ユニバーサルミュージアム 教育普及事業の工夫 14 展示を企画する 資料調査を基に展示を企画する 15 まとめ（授業アンケートを実施する）						
(6)成績評価の方法	通常授業の参加状況とレポート等により評価を行う。						
(7)成績評価の基準	通常講義への出席やレポート等の課題の内容で評価する。レポート等の課題についての評価基準は次のとおり。 (1) 問題の設定が適切であり、(2) その問題の背景を説明できており、(3) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(1) から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。評価は100点満点のうち、レポート等の課題で50点、授業の参加状況で50点。						
(8)事前事後学習の内容	大学における講義は、受講者の事前事後の学習を前提として行われる。教科書として指示された文献、講義の中で指示された参考文献について、事前事後学習として参照すること。						
(9)履修上の注意	履修前、もしくは履修中に任意の博物館展示を見学すること。その他注意すべきことは、初回授業の冒頭で詳しくガイダンスする。						
(10)質問,相談への対応	講義終了後に直接質問してください。 また、メールでの質問も可。						
(11)その他							

【教科書】	基本的に講義の中で紹介する（プリント配布など）
【参考書】	①黒沢浩編『博物館展示論 第2版 学芸員の現場で役立つ基礎と実践』（講談社 2025年） ②日本展示学会編『展示論?博物館の展示をつくる?』（雄山閣 2010年） ①を主とし、②の内容を補助的に用いる。